

道立学校の取組事例

北海道帯広柏葉高等学校（全日制）

取組の名称 生徒総会における「いじめ根絶宣言」

令和5年9月29日（金）5・6時間目

場所：北海道帯広柏葉高等学校第1体育館

校長名 須藤 克志

全校生徒数 711名



【生徒総会の様子】

取組の概要

生徒がいじめに対して主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度の育成を図ることをねらいとして、生徒会執行部が中心となり、全校生徒に「いじめは絶対に許されることではない」という価値観の定着を図ることを目指し、「いじめ根絶」を目的に生徒が作成したいじめ根絶の必要性を説くリーフレットを配布し、生徒会執行部代表生徒が全校生徒の前で「いじめ根絶宣言」を行った。

【生徒の感想】

これからは「友だちだから何をしても許される」ではなく、「友だちだからこそ日常生活からの何気ない気遣いが必要である」ということを意識しようと思います。

成 果

いじめ根絶宣言の実施後のアンケートでは、「これからは、いじめを見たら勇気を出して声をかけたり、先生に相談したりしたいと思う」などの記述があり、いじめ根絶に対する意識の高まりが見られた。

北海道帯広三条高等学校

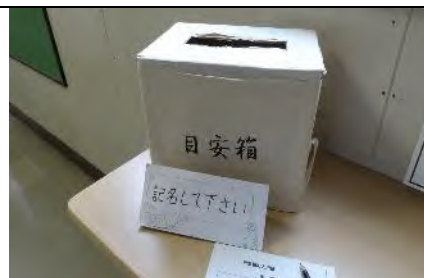
取組の名称 目安箱と生徒会通信を活用した“いじめ根絶運動”

令和6年2月5日（月）～9日（金）

場所：北海道帯広三条高等学校

校長名 合浦 英則

全校生徒数 699名



【廊下に設置している目安箱】

取組の概要

昨年度同様、生徒がいじめについて主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度を育成することをねらいとして実施した。生徒会執行部が年間を通して発行している生徒会通信に「どさんこ 子ども地区会議」の様子を掲載するとともに、いじめについて気になることを常設の目安箱に投函することを呼びかけ、いじめの芽を早めに摘み取ることの重要性を訴えた。

【生徒の感想】

いじめ問題について、十勝全体で取り組んでいることを知ることができた。
いじめは絶対に許されないということを改めて考える機会になった。

成 果

いじめを根絶することについて、自分の考えや思いを相手に伝えることの重要性を再確認したり、いじめの定義について改めて確認したりする生徒がいるなど、お互いに気持ちよく学校生活を送るための方策について考える契機となった。

北海道帯広緑陽高等学校

取組の名称 アサーショントレーニングの振り返り

2月27日(火)放課後

場所：帯広緑陽高校生徒会室

校長名 榆木伸司

全校生徒数 456名



【アサーショントレーニングの様子】

取組の概要

「心の育成」指導の一環として、自分の考えや気持ちを円滑に伝える具体的な方法を事例研究の形で考える「アサーショントレーニング」を昨年9月に全校生徒を対象に実施した。生徒会執行部の生徒たちには、実施後、日常生活において心がけていることや、友人関係の変化など、トレーニングの効果について振り返るとともに、今後の学校生活に生かしていこうと思っていることなどを語ってもらった。

【生徒の感想】

自分のコミュニケーションタイプを知り、日常生活での行動に積極性を発揮させるようにしている。周りに流されないよう自分の意思をしっかりともてるようになった。

成 果

積極的に自分の意見を発言するだけでなく、周囲の仲間にもこれまで以上に声かけや気遣いができるようになってきている。上手な人間関係を築こうという意識の高まりが、いじめ根絶に向けての第一歩になっている。

北海道帯広工業高等学校

取組の名称 「子どもの権利条約」出前講座

12月19日(火)5時間目

場所：北海道帯広工業高等学校 建築科製図室

校長名 中島泰彰

全校生徒数 444名



【講座の様子】

取組の概要

子どもがもっている権利を理解し、不当な扱いや差別を親や教師、生徒間で受けることなく、被害者にも加害者にもならないことをねらいとした講座である。講座では、問答法やパワーポイントを用い、子どもは差別を受けないように育つという考えを根幹に話が進められた。また、心の健康などに関する相談窓口、ヤングケアラーについての説明もあった。講座の最後にはアンケートを行った。

【生徒の感想】

子どもの権利についてよく理解できたし、自分以外の相手を思いやったり、共感したりすることがいじめや暴力をなくしていくことにつながると感じました。

成 果

生徒は自分たちが親によっていじめなどから守られてきたことを実感していた。共感するには相手の置かれている状況を経験しなければ難しいため、生活の中での多くの体験が、共感力を高める原動力だと気付く機会となった。

北海道帯広農業高等学校

取組の名称 生徒主体の「いじめ根絶集会」の取組

12月22日(金)3時間目

場所：帯広農業高等学校体育館

校長名 佐藤 裕二

全校生徒数 594名



【いじめ根絶集会の様子】

取組の概要

生徒がいじめに対して主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度の育成をねらいとして、生徒会執行部とクラス評議員が中心となり、学年ごとにグループで、いじめ根絶に向けた話し合いを進めた。学年ごとにまとめた意見を「いじめ根絶集会」において、各学年の代表生徒が発表することで、いじめ根絶に向けた意識を高めた。

【生徒の感想】

SNSでの何気ない言葉やつぶやきが、誤解を招くこともあることに気が付いた。SNSでのやり取りに限らず相手の気持ちになって考えることの大切さを理解できた。

成 果

いじめ根絶集会の実施後のアンケートでは、「いじめを見たり、聞いたりしたら勇気を出して声をかけたり、先生に相談する」などの記述があり、いじめ根絶に対する意識の高まりが見られた。

北海道音更高等学校

取組の名称 生徒会執行部による会議

12月13日(水)放課後

場所：音更高校生徒会室

校長名 重堂 法人

全校生徒数 243名



【生徒の様子】

取組の概要

生徒会執行部が、「どさんこ 子ども十勝地区会議」の内容を共有した。音更高校におけるいじめの実態や、生徒間での居心地の悪い場合を考え、原因は何だろうか、解消に向けてどうしたらよいだろうかを考えた。生徒会としてできることは、生徒が仲間意識をもつことではないかと考え、音更高校の生徒であるという仲間意識を作るためにも、生徒会行事を充実させようということになった。

【生徒の感想】

みんなが「仲間」と思える学校を作りたい。そのために、生徒会執行部としてできることをどんどんやっていきたい。

成 果

生徒会執行部として、できることを考え、自分たちの活動の意義を見出すことにつながった。今後も生徒一丸となった生徒会活動が行われ、いじめのない音更高校が続いていくと感ずることができると感じた。

北海道上士幌高等学校

取組の名称 上士幌町「どさんこ 子ども地区会議」

11月29日(水) 15:30~

場所: 上士幌高等学校

校長名 宮田 真 克

全校生徒数 165名



【リーダー研修会の様子】

取組の概要

小・中・高のいじめ防止の取組を紹介し合い、いじめをなくすための取組を交流した。上士幌高校は新生徒会執行部で実施したリーダー研修会での「いじめ防止」について話合いの様子を報告した。

最後に上士幌町教育委員会教育推進課の方にアドバイスをもらい、今後の取組の参考とした。

【児童生徒の感想】

小学校や中学校でもいじめ防止の取組を積極的に行っていて、高校の取組をもっとグレードアップさせていかないとならないと思った。

成 果

生徒会役員が小学校・中学校の取組を知り、高校では生徒会が中心となって、いじめ防止の取組を行っていかねばならないと強く感じており、いじめ根絶に対する意識が高まった。

北海道鹿追高等学校

取組の名称 「鹿追町子ども会議」の取組

12月5日(木) 15:30~16:30

場所: 鹿追高校1階視聴覚室

参加学校名: 鹿追高等学校生徒会、鹿追町内全中学校生徒会、
鹿追町内全小学校児童会(生徒6名、児童7名)



【生徒会交流活動の様子】

取組の概要

「鹿追町子ども会議」において、生徒がいじめに対して主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない生徒会・児童会の育成を図ることをねらいとして、鹿追高等学校生徒会役員が中心となり、町内小・中学校の取組を交流した後、参加児童生徒を2つのグループに分け、グループごとのテーマに基づくいじめの未然防止に向けた話合いを通して、「いじめは絶対に許されない」という「鹿追町いじめ撲滅宣言」を採択した。

【児童生徒の感想】

学校種関係なく小学生も高校生も、いじめについて生徒会・児童会が先頭に立って進めていくことを宣言する機会ができてよかった。

他の学校の取組のよさを知ることができ、有意義な時間となった。今回、採択されたいじめ撲滅宣言を学校で周知し、全校生徒でよりよい取組を進めていく。

成 果

子ども会議の実施後のアンケートで、「これからも町内の高校生や中学生との意見交流を通して、いじめを起こさない取組について学びたい。」、「日常から友だちの人間関係から、いじめを決して許さない環境づくりを行っていく。」、「今回の機会を通して、他の学校との生徒会・児童会が交流して様々なことを宣言したい。」などの記述があり意識の高揚が見られた。

北海道清水高等学校

取組の名称 生徒会主体の「いじめ根絶の呼び掛け」の取組

2月13日(火)～28(水)

場所：各HR教室

校長名 江尻 巧

全校生徒数215名(男子 127名 女子 88名)



【どさんこ 子ども十勝地区会議で進行役として協議を進める生徒会執行部】

取組の概要

北海道清水高等学校生徒会では、2023年どさんこ 子ども十勝地区会議のWeb本部として参画するに当たり、いじめがどのような場面で起こりうるのか、そしてどのように周囲が手助けをできるのかについて協議を行った。その協議で得られたことを基に、清水町で行われる「PINK SHIRT DAY in しみず」(令和6年2月28日)に向け、全校生徒に対するいじめ根絶の呼び掛けを行っている。

【生徒の感想】

普段の何気ないやり取りの中で、相手を傷つけてしまうことがあることに気付いた。傷ついた人を見たら、その人に寄り添い、助けられるように行動したい。

成 果

「PINK SHIRT DAY in しみず」に向け、生徒一人ひとりがいじめについて深く考えるきっかけとすることができた。この取組はいじめ見逃し0(ゼロ)強化期間終了後の2月28日まで続くため、全校生徒には期間終了後も継続して意識の向上を図ることができた。

北海道芽室高等学校

取組の名称 生徒会主体の「いじめ根絶宣言」の取組

1月16日(火)1時間目

場所：北海道芽室高等学校体育館

校長名 俵 英 生

全校生徒数440名



【「いじめ根絶宣言」の活動の様子】

取組の概要

冬季休業明け全校集会において「いじめ根絶宣言」のためのスローガンを生徒会が発表した。事前に全校生徒にスローガンを募集し、各学年から1つずつ、全学年から1つ、合計4つのスローガンを生徒会が選考した。全校集会での発表後、各学年の廊下及び生徒玄関に選考されたスローガンを掲示した。

【生徒の感想】

「いじめ根絶宣言」のためのスローガンを全校生徒が考えることで、学校全体としていじめを根絶しようとする姿勢を身に付けるきっかけとなった。

成 果

「いじめ根絶宣言」のためのスローガンには「いじめよりやるべきことがあるでしょう それを考えるとところがスタート地点」という、まずはいじめに対して考える自分の姿を想像する大切さを考えるものがあり、生徒がいじめ根絶に向き合っていた。

北海道更別農業高等学校

取組の名称 更農生が学校生活等で嫌な思い(いじめ)をしない、させないために、私たちが取り組むこと

2月7日(水)放課後

場所: 本校 生徒会室

校長名 伊與部 明

全校生徒数 90名



【生徒会活動の様子】

取組の概要

生徒会執行部において、生徒がいじめに対して主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度の育成をねらいとして、テーマについての話し合いを進めた。

【生徒の感想】

日常生活の何気ない言葉や行動が、相手を傷つけていたり、不安にさせていたりすることに気が付いた。相手を思いやり、言葉を大切に生活していきたい。

成 果

いじめ防止の意識は高められた。Google フォームやチャットなどを使用すると気軽に相談できると考えられる。生徒会としても、いじめ以外のことでも何でも相談できるツールを作成して、相談できる場を設けていく方向性がまとまった。

北海道大樹高等学校

取組の名称 体育大会(生徒会主催)における新たな取組

12月15日(金)1~6時間目

場所: 北海道大樹高等学校体育館・格技場

校長名 福 本 正 規

全校生徒数 83名



【大札かるたの様子】

取組の概要

【概要】

体育大会(生徒会主催)における新たな取り組みとして、午前はクラス対抗で球技種目等を行い、午後は縦割りブロックで大玉運び、大縄跳び、リレー等を行った。球技種目が苦手な生徒のために、ポッチャと大札かるたを生徒の発案で取り入れた。勝利を目指すだけでなく、純粹に競技を楽しむことや他学年と協力し合う体験をすることで、互いを尊重し、いじめを生み出さない環境づくりにつながることを意識して企画した。

【生徒の感想】

他の学年と関わることができ、みんなで応援したりしてチーム一丸となってできて楽しかった。運動が苦手でも楽しむことができた。

成 果

体育大会(生徒会主催)の新たな取組を通して、運動が苦手な生徒も競技を楽しむことができた。縦割りブロックで活動したことにより、他学年の生徒とも協力しながら楽しさを分かち合う体験ができ、他者を理解し尊重する態度の高揚が見られた。

北海道広尾高等学校

取組の名称 生徒会主体の「いじめ未然防止教室」の取組

9月15日(金) 5, 6時間目

場所：北海道広尾高等学校体育館

校長名 柴山 真純

全校生徒数 86名



【「いじめ未然防止教室」の様子】

取組の概要

「いじめ未然防止教室」において、生徒の健全育成を図るとともに、「いじめは絶対に許さない」という意識の向上をねらいとして、生徒会が企画・運営、自らが出演した動画を4本作成(イジリ・おしつけ・金銭・悪口と陰口)・上映し、全校生徒をグループに分け、テーマごとの話し合いを進め、グループの意見を全体で共有した。

また、生徒会長による「広尾高校いじめ0宣言」を行った。

【生徒の感想】

今日の「いじめ未然防止教室」を通して、いじめは卑劣な行為で絶対許されるものではないことを再認識した。もし、友人が被害に遭ったら絶対助けてあげる。

成 果

生徒会が作成した4本の動画は、日常の何気ないことから、どんどんエスカレートしていく様子が身近に感じられる内容だった。事後アンケートでは、「いじめは絶対許さない」「困っている友人がいたら助ける」など、いじめ根絶に対する意識が高まった。

北海道幕別清陵高等学校

取組の名称 「学校独自の交流イベント」の取組

11月1日(水)

場所：北海道幕別清陵高等学校

校長名 小島 政裕

全校生徒数 284名



【ハロウィンイベントの様子】

取組の概要

「授業以外での学年間、生徒間の交流を促す」「様々な生徒に居場所をつくる」という目的から、複数のイベントを学校全体の行事とは別に行っている。ハロウィンイベントでは、色々な考えをもった生徒が自分自身を自由に表現できる場として生徒から好評であり、また、同時に地域の子どもたちに配布するお菓子を「お菓子募金」として募金してもらうなど、他者への思いやりや他者を認める心を育む場となっている。

【生徒の感想】

誰かに話しかけることがずっと苦手だったけれど、勇気を出して、自分の好きな衣装をすることで、「可愛い」と言ってもらえて自信がついた。自分を表現してよいんだなと感じた。

成 果

特に普段おとなしい生徒が活躍できる、自分を表現できる場をつくることで、そういった生徒が自己肯定感を感じることができたり、周囲は他者を受容する機会としたりすることができた。

北海道池田高等学校

取組の名称 生徒会による学校行事におけるスマホや SNS の使用方法についての呼び掛け

12月21日(木)球技大会開会式

場所：池田高等学校体育館

校長名 越 坂 直 広

全校生徒数 100名



【球技大会開会式の様子】

取組の概要

学校祭においてスマホや SNS の使用方法を巡ってトラブルがあったことから、球技大会の開会式においてスマホや SNS の使用方法について、生徒会から注意喚起を行った。SNS の使用方法について注意喚起を行うことで、いじめにつながりかねない画像の公開等を防止し、学校行事をめぐるトラブルを未然に防ぐことを図った。

【生徒の感想】

球技大会などの学校行事ではつい気持ちが大きくなってしまふことが多いので、写真の撮影や SNS への投稿には気を付けようと思った。

成 果

これまでの学校行事とは異なり、球技大会については SNS 等における不適切な投稿は見られなかった。その後の学校生活においても、安易な SNS への投稿やそれに関するトラブルを防止するため、繰り返し注意喚起を行っている。

北海道本別高等学校

取組の名称 バレンタインデー特別企画
放課後カフェ「私たちにできること」

令和6年2月14日(水)

本校生徒玄関ロビー

校長名 五 條 政 人

全校生徒数 81名



【放課後カフェの様子】

取組の概要

生徒会は年間を通していじめ問題への対策として、未然防止と早期発見に取り組んでいる。いずれも、学年を超えた生徒同士の横のつながりを大切にした「一人一人の顔が見える学校生活」が最も大切な要素と考えている。今回の企画では、生徒玄関ロビーに、生徒会が企画した「カフェ」をつくり、学校帰りの生徒たちにお茶とチョコレートを振る舞い、同学年だけではなく、他学年との交流も深めた。

【生徒の感想】

他学年の生徒と会話している姿が多く見られ、今後もこのような企画を実施することの必要性を感じた。

成 果

生徒会の「他学年で起きている出来事も、自分事として問題意識をもとう。」という呼びかけにより、困ったことや相談したいことを、クラスや学年の垣根を越えて、気軽に相談できる仲間づくりの場を設けることができたため、いじめの未然防止につながる取組となった。

北海道足寄高等学校

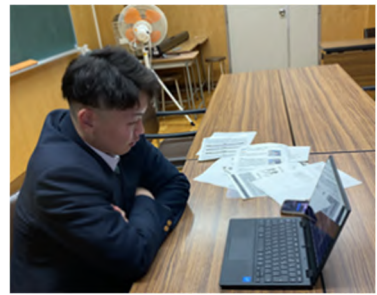
取組の名称 生徒会主体の「いじめ根絶集会」の取組

12月12日(木)昼休み

場所：北海道足寄高校各 HR 教室

校長名 洪 谷 圭

全校生徒数 169 名



【「いじめ根絶集会」に参加する様子】

取組の概要

冬期休業明けの全校集会後に、1人1台端末を活用してリモートによる「いじめ根絶集会」を実施した。生徒会長から、前日の12月11日に開催された「どさんこ子ども十勝地区会議」での協議内容の報告を行った。また、いじめがどのような深刻な事態を招いているか事例等を挙げて、生徒たちが「いじめの撲滅」について主体的に考える時間とし、本校における「いじめ撲滅宣言」を採択した。その後、生徒たちから感想を寄せた。

【生徒の感想】

生徒会長の話から、仲がよくてもお互い人としての尊厳を傷つけることのないよう、認め合い、気遣い、助け合いながら、お互いが過ごしやすい学校をつくっていくことが必要だと感じる事ができた。

成 果

特に SNS を媒介とした「いじめ」等について問題意識をもっている生徒が多く存在することが改めて分かった。一人ひとりの「いじめは絶対に許さない」という気持ちが高まっていることは実感しており、その成果は、心配事があると「先生方に相談する」という傾向が強くなってきていることに現れている。

北海道帯広南商業高等学校

取組の名称 「いじめ根絶」のためにできること

12月19日(火)放課後

場所：生徒会室

校長名 橋 本 功

全校生徒数 581 名



【生徒会だより】

取組の概要

本校においていじめの現状を再認識するとともに、生徒自身が「いじめを絶対に許さない」態度の育成を図ることをねらいとして、生徒会中央委員会において「いじめ根絶」に向けて本校でできることを話し合った。そして、現在行っている自治委員などによる朝の「あいさつ運動」や、「いじめ防止ポスター」による呼びかけ活動を、より充実させていくことを確認するとともに、生徒会だよりで全校生徒への呼びかけを行った。

【生徒の感想】

私たちはお互いが相談しやすい環境をつくったり、多くの人と関われるレクを企画したりするなど、「いじめをしない、させない雰囲気づくり」を構築していくことが重要だと感じた。

成 果

生徒会中央委員という中心の立場としての自覚や、行事の企画・運営や日常の自治活動の中において、「いじめをしない、させない雰囲気づくり」をするという視点においても物事を考えることができるようになった。

北海道士幌高等学校

取組の名称 中垣内祐一さん講演会

11月2日(木) 4時間目

場所：北海道士幌高等学校 体育館

校長名 齋藤 譲 一

全校生徒数 100名(男子58名 女子42名)



【講演の様子】

取組の概要

自分自身の在り方や生き方を気付かせる機会とすることをねらいとして、元バレーボール日本代表であり、東京オリンピック日本代表監督でもあった中垣内さんの体験談から、自身の生活を振り返った。



【生徒からのお礼の様子】

【生徒の感想】

挨拶や整理整頓など、高校時代と変わらない内容を選手時代も求めていたことが印象的で、日常の何気ない行動の積み重ねの大切さを実感し、目的意識を高揚させることができた。

成 果

ほっとアンケートでは生徒の生活状況を確認できた。今後、生徒が生活における目標を立てるための具体的な方法に意識を向けていく過程で、他者の行動に固執しない日常の構築を期待している。また、生徒と相談できる関係性を維持し、学校環境を整えていきたいと考えている。

北海道帯広柏葉高等学校(定時制)

取組の名称 生徒会主体の「いじめ撲滅宣言」の取組

10月13日(金) 1時間目

場所：北海道帯広柏葉高等学校視聴覚教室

校長名 須藤 克志

定時制課程全生徒数41名



【「いじめ撲滅宣言」の様子】

取組の概要

「いじめ撲滅宣言」において、生徒がいじめに対して主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度の育成をねらいとして、生徒会執行部が中心となり、全校生徒で承認・共有した。その実現に向けて、11/21に全校集会、2/9に校長講話を行った。「いじめ撲滅宣言」を各教室に掲示するとともに、1月末の保健と英語の授業で「多様性」「共生」について取り上げ、グループワークを行った。

【生徒の感想】

グループワークで、自分自身が被害者だけではなく、加害者にもなり得ることに気付き、言動に責任をもちたい。

成 果

全校「いじめ撲滅宣言」により、「嫌な思い」をしている人がいる可能性がある認識に立ち、自分自身の言動への責任について気付く機会となり、いじめ撲滅に向けて、加害者だけではなく傍観者等が自他に与える影響や責任について考える機会となった。

北海道帯広盲学校

取組の名称 生徒会主体のいじめをなくすための取組

2月1日(木) 13:00~13:10

場所: 北海道帯広盲学校放送室

校長名 瘧 師 輝 幸

全校幼児児童生徒数 7名



【児童生徒会活動の様子】

取組の概要

児童生徒会役員から昼の全校放送で次の呼びかけを行った。

助けてほしいときに「助けて」と伝えましょう。 人に優しくしましょう。

「ありがとう」「ごめんなさい」を伝えましょう。

困っている人がいたら助けましょう。

「おはようございます」「さようなら」のあいさつをしましょう。

【児童生徒の感想】

日頃から「おはようございます」「さようなら」のあいさつを元気に行うことや、人に優しくすることを心がけることができた。

成 果

幼児児童生徒は日頃から元気に「おはようございます」「さようなら」のあいさつをして、明るい学校にするように努力しているが、児童生徒会が主導して、さらに明るく元気いっぱいの学校づくりに取り組むことができた。

北海道帯広聾学校

取組の名称 全校朝会時の「いじめはやめよう」の取組

2月1日(木) 1時間目

場所: 帯広聾学校体育館

校長名 大塚 雅彦

全校幼児児童生徒数 14名



【全校朝会時の様子】

取組の概要

2月の全校朝会時において、児童生徒会が企画した「いじめはやめよう」は、児童生徒がいじめに対して主体的に考えることを通して、いじめを絶対に許さない態度の育成をねらいとして、児童生徒の言葉で、いじめの定義やきっかけとなる事例、日常生活やコミュニケーションで互いに気を付けることを確認、共有する時間となった。

【児童生徒の感想】

「仲良くすることは大変だけど大切だね。」(小低)、「困った時はきちんと気持ちを相手に伝えたい。」(小高)、「相手の気持ちを思いやる(察する)ことが大事。」(中)

成 果

全校朝会では、たくさんの意見が交流され、子ども同士の関わり方が優しくなったとともに、教師間における児童生徒の情報交換も密になった。取組によって、いじめ根絶の意識は高まった。

北海道帯広養護学校

取組の名称 生活単元学習「大事な体」

11月9日(火) 5.6時間目

場所：北海道帯広養護学校 プレイヤード1

校長名 業 天 誉 久

小学部高ブロック児童数 10名



【学習活動の様子】

取組の概要

小学部高ブロックの生活単元学習「大事な体」の単元で、身近な人との接し方について、安全に生活することや友だちとの適切な関わり方について学習した。

学習では、スライドで表情のイラストを提示し、どのような気持ちか二択から選んだ。学習の中で相手の気持ちを考える時間を設定したり、適切な相手との距離について教師が具体的な距離を見せた後、児童が前に出て発表したりした。

【児童生徒の感想】

日常生活で必要かつ簡単な決まりやマナーを知り、相手の表情を見て気持ちを考え、どのように行動するか理解して行動できた。また、相手との適切な距離感を学んだ。

成 果

この学習の直後から正しく人と接するように考え、人との距離がとれるようになった。相手の気持ちを考えるのに、相手の表情を見て接するようになった。嫌なことをされた時にしっかり先生に伝えるようになり、意識の高まりが見られた。

北海道中札内高等養護学校

取組の名称 生徒会主体の「あいさつ運動」の取組

8月28日(月)～ 9月 1日(金) など4週間

場所：北海道中札内高等養護学校校門前

校長名 太 田 千佳子

全校生徒数 115名



【生徒会の「あいさつ」運動の様子】

取組の概要

本校のいじめ根絶に向けての取組は、全校集会を通じて人権意識の理解、啓発を推進し、一人一人の個性、多様性を認め合う望ましい人間関係づくりを生徒会が中心となり発信し、いじめを起ささないための予防的な取組をねらいとしている。

今年度は、生徒会を中心にあいさつ運動週間を8～11月にかけて4回重点的に設定し、生徒同士による「あいさつ」「声掛け」の機会を設けた。

【児童生徒の感想】

大きな声であいさつを行うよう意識する場面が増えた。一方で、あいさつの声が返ってこなかったり、声が小さかったりしたときは、どうしたのかなと思うことがあった。来年も生徒会としてあいさつ運動に取り組みたい。

成 果

本校のいじめ防止基本方針においては、発達支持的な視点での生徒の状況把握を重要視している。そのため、日常的なあいさつがいじめ防止に向けた予防的な取組であると考え。今年度実施した生徒会主体の「あいさつ運動」は、学校全体であいさつを意識する機会となった。

北海道中札内高等養護学校幕別分校

取組の名称 生徒会主体の「いじめ根絶に向けた取組」

3月12日(木) SHR

場所: 各 HR 教室

校長名 太田 千佳子

全校生徒数 26名



【PR 活動の様子】

取組の概要

いじめを未然に防ぐためにはどうしたらよいかを全校生徒に考えてもらうために、生徒会執行部が未然に防ぐための方策についていくつかの選択肢を用意し、Google フォームでアンケートを作成して、全校生徒の意見を集約した。集約した後、生徒会執行部でアンケート結果から出た意見を基に話し合いを行った。その後、いじめを未然に防ぐための方法を全校生徒に周知した。

【生徒の感想】

ふだんはいじめをすることはいけないと分かってはいたけれど、いざ、未然に防ぐための方法を考えると何をしたらよいか悩んだ。これからの関わり方を考えていきたい。

成 果

いじめをしてはいけないということを理解している生徒がほとんどであったが、いじめを未然に防ぐための方策について悩む生徒が多かった。今後のよりよい学校生活を送るための方策を自分事として考えるよい機会となった。

北海道新得高等支援学校

取組の名称 生徒が主役となる「いじめのない学校作り」の取組

2月13日(火) 1時間目

場所: 北海道新得高等支援学校 体育館

校長名 汐川 裕彦

全校生徒数 29名



【話し合いの様子】

取組の概要

全校集会で「いじめのない学校作りを目指して」をテーマに、スライド、ジャムボード、最後にはアンケートに答えるという形で取組を行った。ポジティブな意見を交換し、生徒同士の考えを知ること、いじめのない学校や楽しい学校づくりをねらいとして、3年生が中心となり、全校生徒を5グループに分け、テーマごとの話し合いを進めた。話し合いにおいて、意見を記入した付箋をジャムボードに貼った後、議論を深め、最後にグループの意見を全体で共有した。

【生徒の感想】

学年だけでなく他学年との交流の大切さや日常会話やあいさつが友だちを安心させていることに気が付いた。今後は、笑顔であいさつをするし、困っていたら相談する。

成 果

全校集会の実施後のアンケートでは、「生徒会だけでなく全校生徒で笑顔であいさつをする。」「困っている人がいたら助けたり、先生に相談したりしたいと思う。」などの記述があり、いじめがない学校づくりに対する意識の高まりが見られた。